



スポーツ分野における 理学療法士の可能性

Swiftrunner株式会社

取締役 岩館正了

本講義の目的

本講義で皆さんにお伝えしたいことは『理学療法士の職域拡大について』です。

理学療法士が活躍する場として、医療・介護分野が一般的ですが、スポーツ等、従来とは違った分野で活躍されている理学療法士も一定数存在しています。

本講義では、職域の拡大に向け、スポーツ分野での仕事内容、必要な知識等を知ってもらうことを目的に、これまでの私の経験やスポーツ分野での実例等を交えながら、理学療法士がスポーツ分野で活躍するための方法を紹介していきたいと思います。

講師自己紹介

名前：岩館 正了(いわだて まさる)

経歴：1998年_理学療法士免許取得(脳神経外科の救急病院にて臨床スタート)

2015年_株式会社iMAREを創業

2020年_Swiftrunner株式会社に取締役として参画

実績：2006年_読売ジャイアンツ鈴木尚広選手のサポート開始。

鈴木尚広選手が引退する2016年まで約10年間サポート実施。

その他多数のアスリートをサポート。

<鈴木尚広選手のサポート内容>

- ・長年悩まされていた腰痛の改善指導
- ・コンディションの最適化・身体的なりフレッシュ等通じケガのしにくい身体作りを指導
- ・並行して、身体操作性や体力の構成要素を向上させるトレーニング指導
- ・結果、鈴木尚広選手の以下の記録樹立に寄与。
 - ★通算228盗塁、うち代走での通算132盗塁(日本記録)
 - ★通算盗塁成功率、8割2分9厘(歴代3位)
 - ★ゴールデングラブ賞、日本シリーズ優秀選手賞など



右:鈴木尚広さん



アジェンダ

- 事業内容と理学療法士の働き方
- スポーツ分野で働くために必要な能力
- スポーツ分野で働く楽しさ・喜び・難しさ
- 理学療法士がスポーツ分野で活躍するためには何をすべきか
- スポーツ分野に興味をもつ皆様へのメッセージ

事業内容



会社名	株式会社iMARE
事業内容	医療介護保険事業 ヘルスケア事業 スポーツ事業
スポーツ関連	プロアスリートへのサポート (施術&トレーニング) チームサポート 子供向けトレーニング教室



会社名	Swiftrunner株式会社
事業内容	レクチャー事業 コミュニティ事業 マッチング事業
スポーツ関連	理学療法士とアスリートのマッチングサービス (アスリートにパフォーマンス向上の機会を作り、 理学療法士にアスリートと働く機会を作る)

スポーツ事業での業務例(私が実施していた内容)

実際に鈴木尚広選手と行っていた1週間の流れは下記のようなになる。

■シーズン中の1週間の流れ

月	施術&トレーニング
火	試合
水	試合
木	試合
金	試合
土	試合
日	試合

※月曜日のトレーニングは地方でなければ必ず実施
 ※火～日は毎日連絡を取って状況を把握し、違和感などあれば球団トレーナーに依頼したり、訪問して施術を実施

■オフシーズンの1週間の流れ

月	施術&トレーニング
火	休み
水	施術&トレーニング
木	休み
金	施術&トレーニング
土	休み
日	休み

※オフシーズンの最初の1週間だけ丸々休暇
 ※1日おきで週3回実施(曜日ずれはあり)
 ※仕事の関係でイレギュラーになるケースあり

事例紹介

■室伏広治(元陸上選手:ハンマー投げ) × ロバート・オオハシ先生(理学療法士)

- ・30歳すぎて故障が増えてきたため、オオハシ先生の指導のもと体幹トレーニングに取り組む。
筋力を鍛えることよりも、主に立ったり、座ったりする「ファンダメンタル(基礎運動)」の機能を高めることで競技力を向上。
- ・現役生活:
 - 2004年アテネ男子ハンマー投げ金メダリスト
 - 2012年ロンドン男子ハンマー投げ銅メダリスト

■牛島和彦(元プロ野球選手) × 山口光國先生(理学療法士)

- ・1990年に肩を怪我し、再起不能といわれる。しかし、山口先生のサポートによって1992年に復活。
- ・2005年から横浜ベイスターズの監督。肩の怪我から復活した際の山口先生をフィジカルコーチとして招聘し、2005年・2006年と肩の故障者を出さないという功績を果たす。
- ・NPB現役生活:
 - 13年、通算成績395試合登板、53勝64敗126セーブ、防御率3割2分6厘
 - 最優秀救援投手1回受賞(1987年)



スポーツ分野で働くための必要な能力

スポーツ分野で働くためには、理学療法士の基礎学問に加えて、応用部分として以下のような能力が必要と考える。

<基礎>

- 理学療法士として必須の基礎学問の活用

- 解剖学・生理学・運動学等

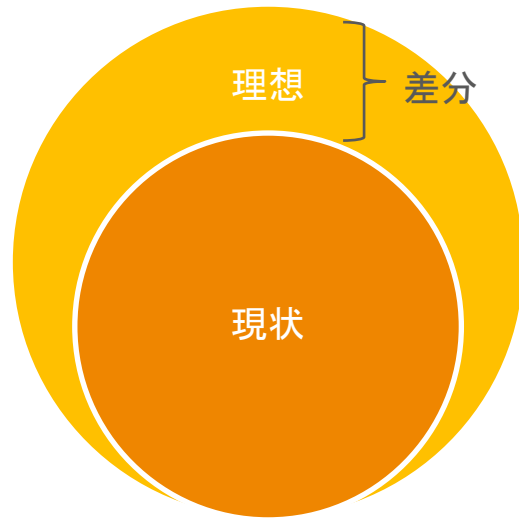
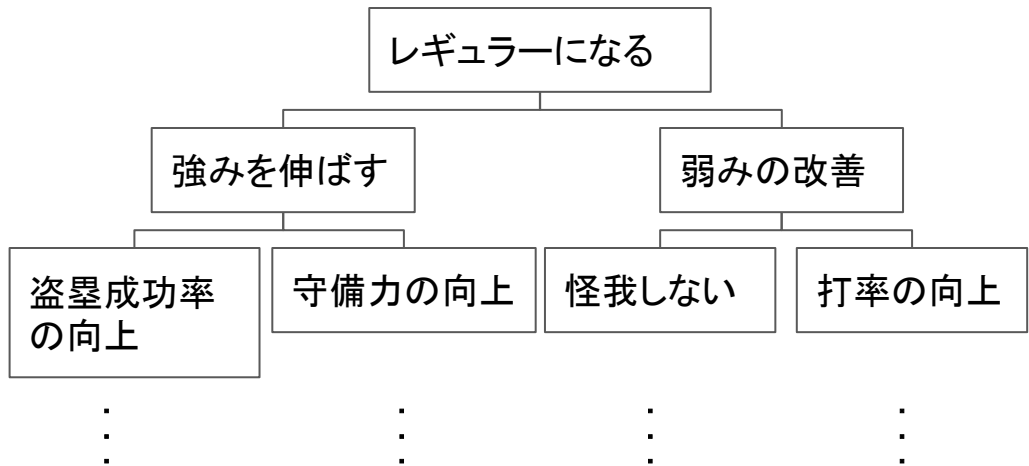
<応用>

- 競技の構造・特性や選手が置かれている状況などを分析して目標を設定する
- 不調箇所や動作を改善させる
- 選手と信頼関係を築くための思考法と柔軟なコミュニケーション

スポーツ分野で働くための必要な能力

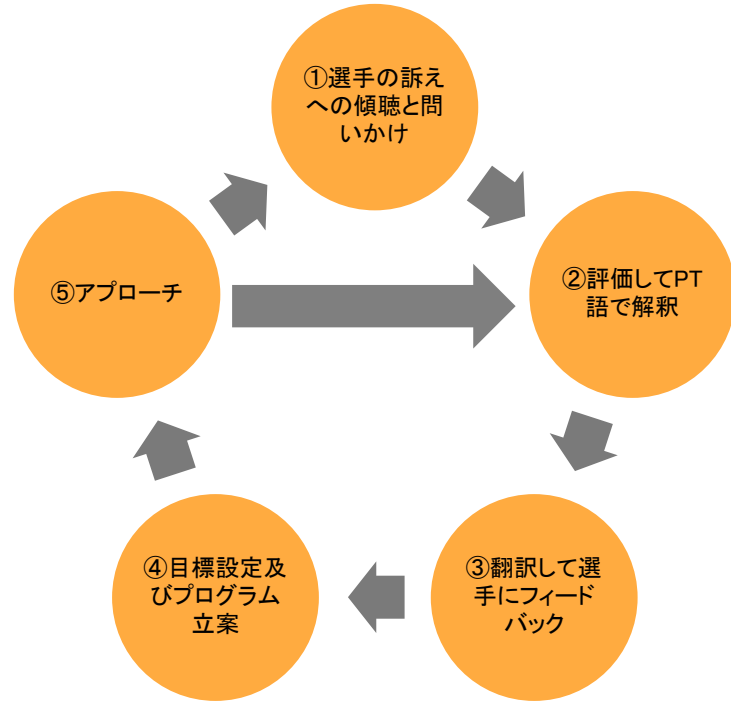
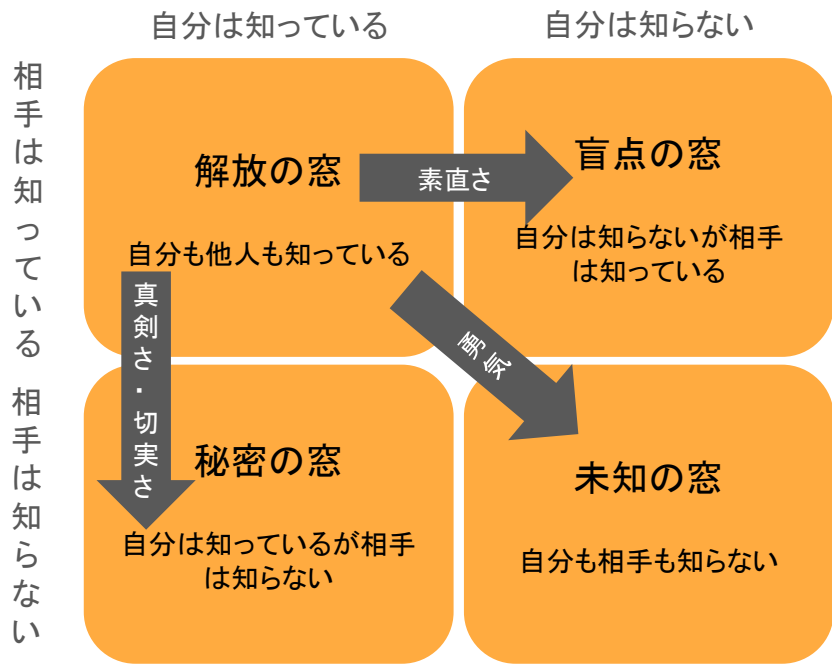
選手が行っている競技の構造や特性、選手の立ち位置などを分析して、選手が目指していることと現状の差分を明確にする。

選手がその競技で最短で成果を出すためにはどのような目標を設定して何をすべきなのかを明確にし、選手と共通認識化する。



スポーツ分野で働くための必要な能力

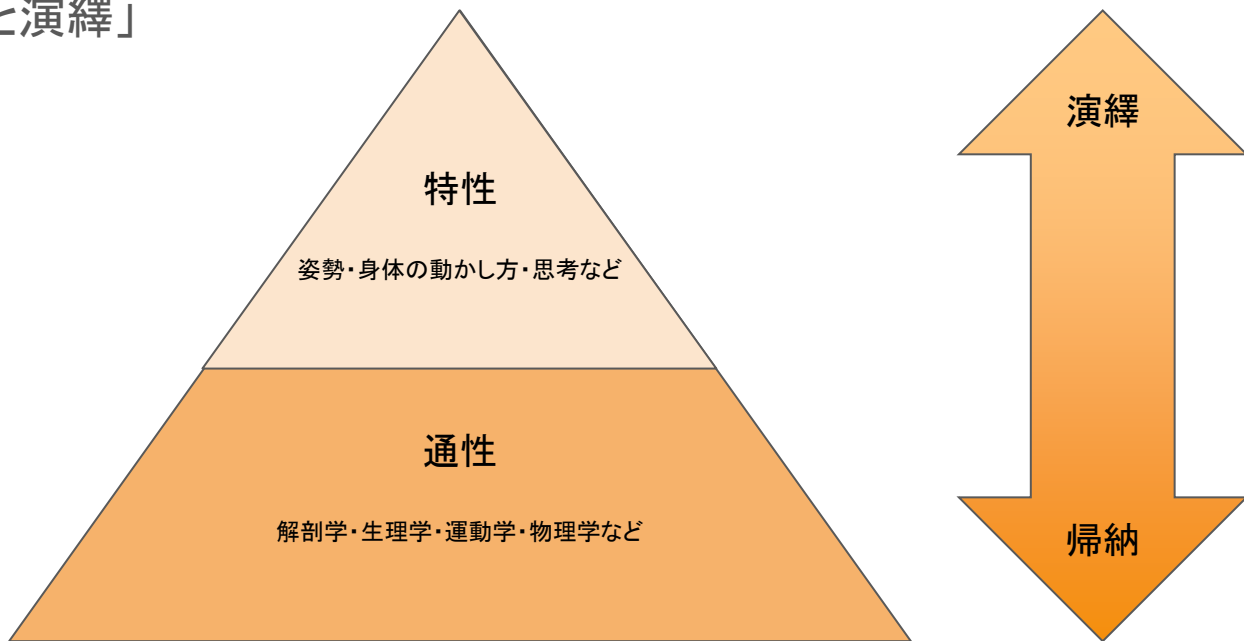
いかにして選手と信頼関係を築くことができるか



スポーツ分野で働くための必要な能力

通性を元に特性を捉える(演繹的思考)だけでなく、特性から通性に落としこむ(帰納的思考)という両方の考え方を持つ必要がある。

「通性と特性」「帰納と演繹」



スポーツ分野で働く楽しさ・喜び・難しさ

スポーツ分野で働くことは多くの困難があるが、
その分ここでしか味わうことのできない楽しさ・喜びがある。

<難しさ>

- アスリートの感覚とセラピストの認識をいかに合致させるか。
- 結果に繋がるまで比較的時間がかかるため、期待値調整が難しい。

<楽しさ・喜び>

- 自分では達成できないような偉業を、(携わった選手が)代わりに達成した時の楽しさ・喜び。
- 活躍した時に、感情移入して一緒に喜ぶことができる。
- 勝負の世界で今を真剣に生きているアスリートに学ぶことが多い。

事例紹介(鈴木尚広選手と分かち合った喜び)

<私が特に喜びを感じた場面>

クライマックスシリーズの初戦で鈴木尚広選手が下肢に不調を抱えたため、ケアをするために宿舎まで向かい、ケアを行った。

その対応によって無事回復し、その後の日本シリーズで活躍した時。

さらには優秀選手賞を獲得した時。

<日々の中で感じる喜び>

施設でトレーニングしながらよく話し合い日々認識を揃えるように心掛けていて、それによって選手の感覚と合致した求めていた動きを獲得した瞬間。

理学療法士がスポーツ分野で活躍するためには何をすべきか

理学療法士がスポーツ分野で活躍するためには、スキルを身につけた上で自ら機会を獲得しなければならない(現状として、待っていても機会は得られない)。しかし、将来的にスキルがあれば機会を得られるように、スポーツ分野における理学療法士の認知力を高めるとともに、アスリートとの懸け橋的存在が必要ではないか。

課題	当事者	取り組み
スポーツ分野で活躍のためのスキルアップ	会員の皆様	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の業務の中で学ぶ ・勉強会などに参加して学ぶ (岩館×鈴木尚広主催のTSBBCなど)
スポーツ分野で理学療法士の認知不足	日本理学療法士協会	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ分野における理学療法士の活躍の広報活動など
スポーツ分野で働く機会不足	Swiftrunner株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・アスリートとの接点を作るサービスの運営

スポーツ分野に興味をもつ会員の皆様へ

医療の知識を持ち、かつ運動学に精通している理学療法士のスポーツ分野におけるニーズは極めて高いと思います。なぜなら、アスリートは身体の感覚が鋭い人が多いため、身体の局所と全体の繋がりとを診ながら、より精緻な動きまで対応する理学療法士との親和性が高いからです。

ただ、相手がアスリートだからといって気負う必要はなく、これまで学んできた知識や技術で十分対応できると思います。

今回お話をさせて頂いたことが、皆様がスポーツ分野で活躍するための一助となれば幸いです。

選手たちは理学療法士を待っています。

スポーツ分野での理学療法士の活躍の場を一緒に広めていきましょう。